

本方の作用

此方は、黄芩以下の三味より成り、而して乾地黄は其量多く、黄芩、苦參は少量なり。即ち此方は、以上の三味互に相協同し、以て其效用を全うするものなり。故に方極に云く

『心胸苦煩スル者ヲ治ス』と。

此説、能く本方の效用を約言せりと謂ふべし。

應用

(一)、産後の婦人等にして、手掌、足蹠に煩熱を覺え、口舌乾燥に苦しむも、敢て飲料を欲せざる症。
(二)、諸般の病後にして、手掌、足蹠、煩熱に苦しむ症。
方機に、其適應症を擧げて云く

『四肢煩熱スル者。兼用ハ黄連解毒散』と。

又、醫聖方格に云く

『婦人草蓐ニ在リ、自カラ發露シ、四肢苦煩熱シ、寐ヌル毎ニ口舌乾燥シテ嗽ガント欲シ、胸中熱痞シ、更ニ諸症ヲ發シ、一二時ニシテ止ムト雖モ、睡リニ就クトキハ、則チ復タ前症ヲ發スル者ヲ治ス』と。
又、類聚方廣義に云く

『骨蒸勞熱、久咳、男女ノ諸血症、支體煩熱甚ダシク、口舌乾涸シ、心氣鬱塞スル者ヲ治ス。』

夏月ニ至ル毎ニ、手掌、足心煩熱シテ堪ヘ難ク、夜間尤モ甚シクシテ、眠ルコト能ハザル者ヲ治ス。諸失血ノ後、身體煩熱、倦怠シ、手掌、足下熱更ニ甚シク、唇舌乾燥スル者ヲ治ス。
小柴胡湯ハ、四肢煩熱シテ、頭痛、惡風シ、嘔シテ食ヲ欲セザル等ノ症有ル者ヲ治ス。此方ハ、外症已ニ解シ、但ダ四肢ノ煩熱甚シク、或ハ心胸苦煩スル者ヲ治ス。辨識セズンバアル可ラザル也』と。
此等の諸説、宜しく本方運用上の参考と爲すべし。

牡蠣澤瀉散 ボレイタクシヤサン (傷寒論方)

牡蠣 澤瀉 括蔞根 蜀漆 葶藶 商陸根 海藻各等分

右七味、別に末にし、混和して散と爲し、白湯を以て、一回約四・〇を服用す(通常一日三回)。

『小便利スレバ、後服ヲ止ム。』

藥能

商陸根(シヤウリクコン)の性能

古方藥品考に云く

『氣味辛ク發クシテ毒有リ。故ニ能ク下行シテ毒氣ヲ攻メ、以テ專ラ水腫、脹滿等ヲ療ス』と。
又、古方藥議に云く

『味辛平、水脹ヲ主ドリ、胸中ノ邪氣、痿痺、腹滿、洪直ヲ療ス』と。

海藻（カイサウ）の性能

古方藥品考に云く

『其味鹹ク、性滑滋、故ニ能ク結氣ヲ下シ、小便ヲ利シ、畜水ヲ泄シ、以テ浮腫等ヲ除ク』と。
又、古方藥議に云く

『味苦寒、結氣ヲ破散シ、十二ノ水腫ヲ下ス。常ニ之ヲ食ヘバ男子ノ瘡疾ヲ消ス』と。

本方證

牡蠣澤瀉散の證として、傷寒論に擧ぐる所の要を摘めば

○腰より以下、水氣有る證。（陰陽易差後勞復病篇）
なり。

吉益東洞氏曰く

『按ズルニ、當ニ胸腹ニ動有リ、或ハ渴スルノ證有ルベシ』と。

本方の作用

此方は、牡蠣以下の七味より成り、而して其分量は皆同一なり。

即ち此方は、以上の七味互に相協同し、以て其效用を全うするものなり。

故に方極附言に云く

『身體腫レ、胸腹ニ動有リ、渴シテ小便利セザル者ヲ治ス』と。

此説、能く本方の效用を約言せりと謂ふべし。

應用

(一)、心悸亢進、逆上感あり、尿利著しく減少し、腰脚より趾頭に至るまで水腫ある症。

(二)、身體稍や羸瘦し、逆上感あり、下腹部麻痺し、尿利減少し、下肢腫れて倦怠甚だしき症。

(三)、或は發汗し、或は下して後、心悸亢進、逆上を感じ、尿利著しく減少し、下腹部麻痺し、脚部腫れて脱するが如き感ある症。

(四)、發汗、下後、全身疲勞し、頭重、逆上を感じ、尿利澁滯し、脚部腫れて脛痛し、特に龜頭部に寒冷を覺ゆる症。

類聚方集覽に云く

『赤小豆等分ヲ加フレバ、尤モ妙ナリ。若シ葶蘆無ケレバ、宜シク甘遂ヲ以テ、之ニ代フベシ。

脚氣、腫滿シ、小便利セザル者ハ、宜シク八味丸ノ煎汁ヲ以テ、此方ヲ服スベシ』と。

又、方機に、其適應症を擧げて云く

『胸腹ニ動有リテ渴シ、腰以下水腫スル者。麩賓（兼用）』と。

又、醫聖方格に云く

『病人、水氣有リ、脇下痞鞭シ、喘咳シテ微シク渴シ、大便鞭ク、小便少ナキ者ハ、牡蠣澤瀉散之ヲ主ド
ル』と。

又、類聚方廣義に云く

「後世ニ虚腫ト稱スル者ハ、此方ニ宜シキ者有リ。宜シク其症ヲ審カニシ、以テ之ヲ與フベシ。若シ散服スル能ハザル者ハ、湯ト爲シテ用フ可シ」と。
此等の諸説、宜しく本方運用上の参考と爲すべし。

[乙] 兼用方

此編に收むる藥方は、田口信菴氏輯、古方兼用丸散方中より選べるものにして、其之に關する他説の如きは、聊か本方運用上の参考に資せんが爲めに他ならず。

第一 巴豆劑

註に云く

「今此丸圓ヲ用ヒテ之ヲ效ルニ、曰ク心腹卒痛ト、曰ク結毒ト、曰ク暴厥ト、曰ク虻蟲、急痛ト、曰ク大便セズ、水氣有ル者ト。皆是レ其毒、胸腹ニ結聚シ、或ハ急痛シ、或ハ卒暴ニ死セント欲スル者也。其證候ヲ審カニシ、此等ノ丸圓ヲ以テ、本方ニ兼用スルトキハ、則チ之ヲ治ス可キ也。又曰ク、摺藥ノ一方ハ、此例ニ非ズト雖モ、已ニ巴豆ヲ用フレバ、乃チ今茲ニ伍ス」と。

備急圓 ビキフエン 一名大呂圓 タイリヨエン

巴豆(殼を去る) 乾薑 大黃各四・〇

右三味、先づ大黃、乾薑を細末と爲し、巴豆を研りて末に合し、蜜にて大豆の大きさに丸し、温湯若くは

酒を以て、一回二三丸或は四五丸を服用す。

藥能

巴豆（ハヅ）の性能

古方藥品考に云く

「味辛辣、大熱ニシテ毒有リ。故ニ其能、痞閉ヲ破リ、腸胃中ノ癰毒ヲ蕩滌ス。或ハ肌膚ニ貼スルトキハ、則チ惡肉、瘡毒ヲ去ル」と。

又、古方藥議に云く

「味辛溫、癥瘕、結聚、堅積、留飲、痰癖、大腹ノ水脹ヲ破リ、閉塞ヲ開通シ、水穀道ヲ利シ、惡瘡、臭肉、及ビ疥癩、疔腫、喉痺、牙痛ヲ治ス」と。

效用

古方兼用丸散方に云く

「心腹卒痛シ、或ハ暴厥スル者ヲ治ス。金匱ニ曰ク、若シ口禁セバ、亦須ク齒ヲ折リテ灌グベシ云云ト。備急ノ二字、以テ之ヲ見ル可キ也。吾門一日モ無カル可ラザルノ要方也」と。

醫聖方格に云く

「心腹脹滿、實痛シ、若クハ諸ロノ卒暴ノ百病、若クハ卒死（假死）シ、口噤ム者ヲ治ス」と。
藥方選に云く

「卒病、中惡、腹脹シ、卒痛シ、口禁シテ卒死（假死）スル者ヲ治ス」と。

類聚方廣義に云く

「此方、飲食傷、霍亂、一切ノ諸病暴カニ發シ、心腹滿痛スル者ヲ治ス。

妊娠水腫、死胎、心ニ沖シ、便秘シ、脈實ナル者ハ、之ヲ用フレバ胎即チ下ル。紫圓（次出）モ亦佳ナリ。但ダ其人ノ強弱ヲ審カニシ、以テ之ヲ處ス可シ」と。

此方、諸般の急性食品中毒に之を用ふれば、能く其毒物を吐瀉して治癒せしむ。

紫圓 シエン

巴豆（殻を去る） 赤石脂 代赭石各四・〇 杏仁八・〇

右四味、先づ赤石脂、代赭石を細末と爲し、巴豆、杏仁を研りて末に合し、糊にて小粒の丸と爲し、溫湯を以て、一回〇・四乃至一・五を服用す。小兒は年齢に應じて減量す。

同銘方（春林軒丸散方）

代赭石四・〇 巴豆（殻を去る）二・五 赤石脂 杏仁各二・〇

右四味、丸法、用法同前。

藥能

第一 巴豆劑

代赭石（タイシャセキ）の性能

古方藥品考に云く

『其體重クシテ沈降ナリ。故ニ能ク驚動及ビ逆氣ヲ瀉シ鎮メ、以テ噯氣、反胃、吐血等ヲ治ス』と。

又、古方藥議に云く

『味苦寒、腹中ノ邪氣、女子ノ赤沃、漏下ヲ主ドリ、五臟、血脈中ノ熱ヲ除キ、小兒ノ驚癇、疳疾、反胃ヲ治シ、瀉痢シテ精ヲ脱スルヲ止ム』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『胸腹ノ結毒、或ハ腹滿シテ大便セズ、或ハ水氣有ル者ヲ治ス。千金方ニ曰ク、紫圓ハ療セザル所無シ。下スト雖モ人ヲ虛セズ』と。

春林軒丸散方に云く

『心痛（胃痛の意）、腹脹、大便通ゼズ、或ハ痢疾、熱病、或ハ食滯、所謂痛風、卒中風、中暑、驚風、癩、胎毒、微毒、發狂ノ類、心胸ニ迫ル者ヲ治ス』と。

此方、大人の微毒性諸症、小兒の消化不良に因する諸疾患等に用ふれば、能く奇效を奏すべし。然れども其作用峻烈なるを以て、體質薄弱の者、或は虚候を帯ぶる者には特に其投與を慎まざる可らず。

疥癬摺藥 カイゼンすりぐすり

巴豆 大黃 草麻子 黑胡麻各等分

右四味、細かに刻み、麻布に之を包み、熱酒に漬して之を打つこと屢ばなれば、二時間或は一時間に於て麻疹の如く發疹す。發疹すれば、湯水を以て洗ふことを禁ず。此の如くすること六七日許りにして入浴すれば、則ち疹白く盡きて愈ゆ。

藥能

草麻子（ヒマシ）の性能

藥性提要に云く

『辛、甘ニシテ毒有リ。竅ヲ通ジ、毒ヲ抜き、有形ノ滯物ヲ出ス』と。

胡麻（ゴマ）の性能

藥性提要に云く

『甘ニシテ平、五臟ヲ潤ホシ、腸ヲ滑カニシ、風、濕ノ氣ヲ逐フ』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『疥癬ハ、新久ヲ問ハズ、必ズ之ヲ打チテ奇效アリ。面部、兩乳、及ビ前後ノ陰邊（陰部及び肛門部の意）

ハ、之ヲ打ツ可ラザル也」と。

第二 輕粉劑

註に云く

『今此丸散ヲ用ヒテ之ヲ效ルニ、曰ク陳固ノ毒ト、曰ク骨節疼痛ト、曰ク下疳、便毒ト、曰ク惡毒解シ難シト、曰ク一身瘡ヲ發スト、曰ク膿汁ヲ出ス者ト。皆是レ惡毒胸膈ニ結ボレテ、走ツテ一身、頭面、四支、前後ノ陰ニ發シ、而シテ腫痛、腐爛、筋骨疼痛ノ患ヲ作ス者也。或ハ仲景ノ方（傷寒論及び金匱要略中の藥方を指す）ヲ用フト雖モ、治ス可ラザル者有リ。今其證候ヲ審カニシ、此等ノ丸散ヲ撰ビテ、仲景ノ方ニ兼用スルトキハ、則チ之ヲ治ス可キ也。又曰ク、伯州散ノ一方ハ、此例ニ非ズト雖モ、已ニ惡毒ヲ治スレバ、乃チ今茲ニ伍ス」と。

前七寶丸 ゼンシチハウグワン

輕粉 牛膝各四・〇 土茯苓二・〇 鷄舌香一・〇（鷄舌香は丁字なり。白米少許を入れ、研磨すれば末となり易しと） 大黃一・六
右五味、各別に細末にし、糊にて丸と爲す。

後七寶丸 コウシチハウグワン

巴豆 鷄舌香各二・〇 大黃三・二
右三味、各別に細末にし、糊にて丸と爲す。
先づ前方を服すること、朝夕各一回〇・四乃至〇・八を以てし、之を持續すること三日間にして、第四日に至り、後方を服すること、亦前方の如くす。然れども此方、其作用峻烈にして、屢ば中毒症狀を現はすを以て、特に注意を要す。

藥能

輕粉（ケイフン）の性能

藥性提要に云く

『辛ニシテ冷、蟲ヲ殺シ、痰ヲ劫ヒ、積ヲ消シ、瘡ヲ治シ、齒齦ヨリ邪毒ヲ出ス』と。

牛膝（ゴシツ）の性能

藥性提要に云く

『苦、酸ニシテ平、肝腎ヲ益シ、筋骨ヲ強メ、腰足痛ヲ治シ、諸藥ヲ引イテ下行シ、惡血ヲ散ズ』と。

土茯苓（ドブクリヤウ）の性能

藥性提要に云く

「甘、淡ニシテ平、濕熱ヲ除キ、脾胃ヲ健カニシ、小便ヲ利シ、楊梅瘡ノ毒ヲ治ス」と。
鶏舌香（ケイゼツカウ）の性能
藥性提要に云く

效用

「辛ニシテ溫、胃ヲ煖メ、腎ヲ補ヒ、胃冷エテ嘔噦、泄利スルヲ治ス」と。

古方兼用丸散方に云く

「瘡毒、骨節疼痛シ、陳痼ノ毒ヲ治ス」と。

續七寶丸 ゴクシチハウゲワン

水銀一四・〇 礬石 消石各二四・〇 食鹽八・〇

右四味、先づ礬石、消石を碎きて後、四味を合して瓦盆の中に入れ、茗盃（即ち茶椀）を以て之を覆ひ、更に砂土を以て築き固め、傍らより藥氣を漏れざらしめ、之を火上に案架して、下より焼くこと半日許りにして、其茗盃に附着する黒燒を取り、大棗の肉を以て丸に作る。

通常、前、後七寶丸を服して後、本方を服用す。服法、用量、總て前方に同じ。本方も亦中毒症狀を發し易し。

藥能

水銀（スキギン）の性能

藥性提要に云く

「辛ニシテ寒、蟲ヲ殺シ、金銀銅錫ノ毒ヲ解ス」と。

礬石（バンセキ）の性能

藥性提要に云く

「酸、鹹、寒ニシテ澇、濕ヲ燥カシ、涎ヲ追ヒ、痰ヲ化シ、毒ヲ解ス」と。

食鹽（シヨクエン）の性能

藥性提要に云く

「鹹、甘、辛ニシテ寒、熱ヲ瀉シ、燥ヲ潤ホシ、二便ヲ通ジ、吐ヲ引ク」と。

效用

古方兼用丸散方に云く

「前七寶丸ヲ用ヒテ、功無キ者ヲ治ス」と。

梅肉散 バイニクサン

輕粉 巴豆各四・〇 乾梅肉 山梔子各黒燒八・〇（此二物を黒燒と爲せば、能く惡肉、惡血を解すと）

右四味、各別に細末にし、合して散と爲す。若し散服する能はざる者は、糊にて丸と爲すも亦佳なり。通常、一回〇・四乃至〇・八を温湯にて服用す。又體質の強弱に應じて、其用量を増減す。

藥能

梅肉（バイニク）の性能

梅肉は、酸味強烈にして、止渴、清涼、解熱、收斂、止痛、殺蟲、殺菌等の作用あるが如し。

效用

古方兼用丸散方に云く

『惡毒解シ難キ者ヲ治ス。一方ヲ見ルニ、曰ク、諸ロノ惡瘡、結毒、及ビ下疳瘡ノ者ヲ治ス云云』と。

伯州散 ハクシウサン

反鼻黑燒

津蟹黑燒（或は鼯鼠の黑燒を以て之に代ふ）

角石黑燒（或は鹿角の黑燒を以て之に代

ふ）各等分

右三味、各別に細末にし、混和して散と爲し、一回二・〇乃至四・〇を酒にて服用す。若し酒服する能はざる者は、白湯にて服用するも亦佳なり（通常一日二、三回）。

此方、本と伯耆の民間より出づ。故に後世、之を伯州散と名くと。

藥能

反鼻（ハンビ）の性能

反鼻には、興奮、強壯、發表、温暖、鎮痛、排膿、肉芽の發生促進等の作用あるが如し。

蟹（かに）の性能

藥性提要に云く

『鹹ニシテ寒、血ヲ散ジ、筋骨ヲ續グ。漆瘡ニ塗ル』と。

鼯鼠（エンソ）の性能

鼯鼠には、興奮、強壯、排膿、解毒、收斂等の作用あるが如し。

角石（カクセキ）の性能

藥性提要に云く

『甘ニシテ温、陽ヲ補ヒ、血ヲ養ヒ、髓ヲ補フ』と。

鹿角（ロクカク）の性能

藥性提要に云く

『熱ヲ散ジ、血ヲ行ラシ、腫ヲ消ス』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『惡毒、發出シ難キ者ヲ治ス。一方ヲ見ルニ、曰ク、一切ノ打身、瘡疾、瘡毒疼痛シ、或ハ諸瘡内攻スル

者ヲ治スト。又一方ヲ見ルニ、曰ク、毒腫シ、又ハ膿有ル者ヲ治ス」と。
春林軒丸散方に云く

「諸瘡、惡腫ハ、之ヲ服スレバ膿潰セシム」と。

凡そ諸般の化膿性炎症にして、著しき熱發を伴はず、或は疼痛し、或は既に膿潰する者に、本方を用ふれば、能く速かに治癒せしむべし。

腋臭摺藥 エキシウすりぐすり

輕粉二・〇 爐甘石 礬石各四・〇

右三味、先づ礬石、爐甘石を細末にし、後、輕粉を合して散と爲し、之を以て腋下を擦る。

藥能

爐甘石（ロカンセキ）の性能

藥性提要に云く

「甘ニシテ温、濕ヲ燥カシ、目ノ疾ヲ治ス」と。

效用

腋臭を治す。

第三 大 黄 劑

註に云く

「今此丸散圓ヲ用ヒテ之ヲ效ルニ、曰ク治ス可ラズト、曰ク堅塊ト、曰ク痞鞭ト、曰ク大便通ゼズ、或ハ難ク、或ハ微利スト、曰ク胸間ニ毒有リト、曰ク坐起安カラザル者ト。皆是レ其毒、胸腹ニ結ボレテ陳久、難治ノ者也。其證候ヲ審カニシ、此等ノ丸散ヲ選ビテ本方ニ兼用スルトキハ、則チ之ヲ治ス可キ也」と。

薊黃散 キユウワウサン 一名應鐘散 オウシヨウサン

大黄一〇・〇 芎藭六・〇

右二味、各別に細末にし、混和して散と爲し、一回二・〇乃至四・〇を酒にて服用す。下るを以て度と爲す。

又、病證に隨ひ、毎夜連續服用するも亦可なり。

效用

古方兼用丸散方に云く

「轉變シ、治ス可ラザル者ヲ治ス。轉變トハ、病證轉變シテ治ス可ラザル也。又一方ヲ見ルニ、曰ク、瘡及ビ頭上ノ毒ヲ治ス」と。

春林軒丸散方に云く

『諸般ノ上逆甚ダシク、大便セズ、或ハ頭痛、耳鳴シ、或ハ頭痒ク、或ハ白屑多ク、或ハ瘡ヲ生ジ、或ハ頭眩、目眩シ、或ハ肩強リ、或ハ口熱、齒痛スルヲ治ス。若シ打撲シテ瘀血有ル者ハ、蕎麥ヲ加ヘテ、酒ニテ服ス』と。

硝石大圓 セウセキタイエン 一名夾鐘圓 ケフシヨウエン

大黃四〇・〇 消石三〇・〇 甘草 人參各一〇・〇

右四味、各別に細末にし、醋一合五勺を以て、先づ大黃を煮て一合に減じ、後、甘草、人參を入れ、再び煮て飴狀の如くにし、火より下し、更に消石を入れ、攪和して丹と爲す。
用量一回二・〇乃至四・〇。

效用

古方兼用丸散方に云く

『腹中ノ結毒、心下痞鞭ノ者ヲ治ス』と。

春林軒丸散方に云く

『腹中ニ僻塊有リ、心下痞硬シ、或ハ腹痛シ、吐食スル者ヲ治ス』と。

甘連大黃丸 カンレンダイワウグワン 一名林鐘丸 リンシヨウグワン

大黃六〇・〇 甘草 黃連各三〇・〇

右三味、各別に細末にし、糊にて丸と爲す。
用量一回二・〇乃至四・〇。

效用

古方兼用丸散方に云く

『胸間ニ毒有リ、心煩シテ安カラザル者ヲ治ス』と。

春林軒丸散方に云く

『心中煩悸シ、大便セザル者ヲ治ス』と。

鐵砂大黃丸 テツシヤダイワウグワン

剛鐵砂 蕎麥各三・〇 大黃六・〇

右三味、各別に細末にし、水にて煉り、丸と爲し、一回二・〇乃至四・〇を酒にて服用す。若し酒服する能はざる者は、白湯にて服用するも亦佳なり。

藥能

鐵(テツ)の性能

藥性提要に云く

「辛、平ニシテ重墜。心ヲ鎮メ、肝ヲ平ラゲ、驚ヲ定^マンジ、狂ヲ療ス」と。

蕎麥(ケウバク)の性能

藥性提要に云く

「甘ニシテ寒、氣ヲ降シ、腸ヲ寬ム」と。

效用

古方兼用丸散方に云く

「發黃シ、短氣スル者ヲ治ス」と。

此方は、諸般の貧血、或は萎黃病類似の疾患にして、心悸亢進、足部の浮腫等を現はす者に效あり。

第四 甘 遂 劑

註に云く

「今此丸散丹ヲ用ヒテ之ヲ效ミルニ、曰ク水腫、小便セズト、曰ク痰喘スト、曰ク胸中苦煩スト、曰ク腹脹スト、曰ク下ノ疾^{ヤレ}ト、曰ク背痛スル者ト。皆是レ水毒、胸腹ニ留リテ背脚足ニ及ビ、醫、利スト雖モ、續イテ之レ有ル者也。是レ難治ノ一證也。此等ノ丸散丹ヲ撰ビテ本方ニ兼用スルトキハ、則チ之ヲ治ス可キ也」と。

平水丸 ヘイスキゲワン 一名麩賓丸 ズキヒンゲワン

甘遂二・〇 芒消 芫花各三・〇 商陸四・〇 吳茱萸五・〇

右五味、各別に細末にし、糊にて丸と爲し、一回〇・四乃至一・二を服用す。

同銘方 (春林軒丸散方)

甘遂二・〇 芒消 芫花 吳茱萸各三・〇 商陸四・〇

右五味、細末にし、糊にて丸と爲す。用量用法總て前法に同じ。

效用

古方兼用丸散方に云く

「水腫、小便利セズ、胸中煩シテ喘シ、及ビ下ノ疾^{ヤレ}ノ者ヲ治ス。一方ヲ見ルニ、曰ク、脚氣腫滿シ、大便セザル者ヲ治ス」と。

藥方選に云く

「脚氣ノ腫滿、水腫、及ビ下部ノ病ヲ治ス」と。

控涎丹 コウゼンタン 一名姑洗丸 コセンゲワン

甘遂 大戟 白芥子各等分

右三味、各別に細末にし、煉蜜を以て混和し、丹と爲す。或は糊にて丸と爲すも亦佳なり。通常、一回一・〇乃至三・〇を生薑汁湯にて服用す。

藥能

白芥子（ビヤクカイシ）の性能

藥性提要に云く

『辛ニシテ温、氣ヲ利シ、胃ヲ開キ、痰ヲ豁ヒラク』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『痰喘シテ胸中了了タラズ、或ハ背痛スル者ヲ治ス』と。

春林軒丸散方に云く

『胸中ニ痰飲有リテ咳嗽、短氣シ、或ハ攣痛シ、或ハ項背強コババリ痛ム者ヲ治ス』と。

如神丸 ジョシングワン 一名仲呂丸 チユウリヨグワン

大黃六・〇 牽牛子 甘遂各三・〇 （一方に、消石三・〇有り）

右三味、各別に細末にし、糊にて丸となす。通常、一回一・五乃至三・〇を白湯にて服用す。

同銘方（春林軒丸散方）

大黃 牽牛子各六・〇 甘遂三・〇

右三味、細末にし、糊にて丸と爲す。用量用法總て前法に同じ。

藥能

牽牛子（ケンゴシ）の性能

藥性提要に云く

『辛、熱ニシテ毒有リ。下焦ノ鬱過ヲ通ジ、水ヲ逐ヒ、大小便ヲ利ス』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『腹脹、水腫、小便利セザル者ヲ治ス』と。

春林軒丸散方に云く

『一心下硬滿シ、小便利セズ、四肢疼痛シ、大便通ゼズ、或ハ身體腫痛シ、或ハ腰間攣痛シ、或ハ陰囊腫レ、少腹ニ引イテ痛ム者ヲ治ス』と。

第五 雜 方

桃花 大黃湯 タウクワダイワウタウ

桃花（白桃花を佳とす。新鮮なるものを陰乾しと爲し、之を用ふ）八・〇 大黃四・〇
右二味、水一合二勺を以て、先づ桃花を煮て八勺を取り、後、大黃を入れ、再び煮て六勺を取り、一回に服用す。

藥能

桃花（タウクワ）の性能

藥性提要に云く

『苦ニシテ平、宿水ヲ下シ、二便ヲ利ス』と。

效用

古方兼用丸散方に云く

『水氣有リテ停滯シ、小便利セズ、身腫脹スル者ヲ治ス』と。

淺田宗伯氏曰く

『今、此方ニ甘草ヲ加フ。酒醒ヲ解スルコト甚ダ速カナリ』と。

黃連解毒湯 ワウレンゲドクタウ

黃連三・六 黃芩 大黃 梔子各二・四

右四味を一包と爲し、熱湯八勺中に之を漬し、須臾にして絞り、滓を去りて一回に溫服す。

效用

古方兼用丸散方に云く

『心胸ノ間ニ毒有リテ停滯シ、或ハ心下、之ヲ按ジテ濡ニシテ煩悶シ、或ハ心志定ンゼザル者ヲ治ス』と。

鷓鴣菜湯 シヤコサイタウ

鷓鴣菜（即ち海人草）八・〇 大黃 甘草各一・〇乃至二・〇

右三味、水二合五勺を以て、先づ二味を煮て一合を取り、後、大黃を入れ、再び煮て六勺を取り、一回に服用す。

藥能

鷓鴣菜（シヤコサイ）の性能

鷓鴣菜は、僅かに鹹味を有し、蛔蟲を驅り、腹痛を止め、腸粘液を去る等の作用あるが如し。

效用

古方兼用丸散方に云く

『蟲有リテ吐下シ、諸證ヲ見ハス者ヲ治ス。一方ヲ見ルニ、曰ク、虻蟲、涎沫を吐下シ、心痛（胃痛の意）

發作、時有ル者ヲ治ス』と。

此方、蛔蟲驅除に能く效を奏す。又丸劑と爲して之を用ふるも、亦可なり。

石膏黃連甘草湯 セキカウワウレンカンザウタウ

石膏二〇・〇 黃連四・〇 甘草三・二

右三味を一包と爲し、水一合五勺を以て、煮て六勺を取り、一回に服用す。

效用

古方兼用丸散方に云く

『心煩シテ、大ニ渴スル者ヲ治ス』と。

此方、諸般の熱性病にして、口舌乾燥し、煩渴甚だしく、苦惱悶亂する者を治す。又、證に由り、小半夏加茯苓湯に合用すべき場合あり。

附録 掌善醫院方函雜方

以下鈔録する數方は、従前、余が家に常用したる藥方中の一にして、或は古方に兼用し、或は單用したるものなり。

藿香湯 (家方)

藿香 益智 縮砂各三・〇

右三味を一包と爲し、水一合を以て、煮て六勺を取り、頓服す。

藥能

藿香 (クワクカウ) の性能

藥性提要に云く

『辛、甘ニシテ微シク温、中ヲ和シ、胃ヲ開キ、嘔ヲ止メ、惡氣ヲ去リ、飲食ヲ進ム』と。

益智 (ヤクチ) の性能

藥性提要に云く

附録 掌善醫院方函雜方

『辛ニシテ熱、心腎ヲ補ヒ、精ヲ澹ラシ、氣ヲ固メ、鬱結ヲ開キ、氣ヲシテ宣通セシメ、食ヲ進メ、涎ヲ攝ス』と。

縮砂（シユクシヤ）の性能

藥性提要に云く

『辛、溫ニシテ香竇、胃ヲ和シ、脾ヲ醒シ、氣ヲ快クシ、滯ヲ通ジ、痰ヲ祛リ、食ヲ消シ、胎ヲ安ンズ』と。

效用

頭痛、眩暈を發する諸病にして、熱性症候なく、或は下肢寒冷にして頭面熱し、或は宿醉にして嘔氣、嘔吐を發し、頭重く、身體倦怠を覺ゆる等の者を治す。

白桃花湯（家方）

白桃花（新鮮なるものを蔭乾しと爲し用ふ）六・〇 黒丑（即ち黒色の牽牛子）二・〇 大黃二・〇

〇 甘草〇・八

右四味を一包と爲し、水一合二勺を以て、煮て六勺を取り、頓服す。

效用

脚氣水腫、及び爾餘の水腫を發する諸疾患を治す。

消滯丸（家方）

大黃一〇・〇 枳實 神麴各五・〇 茯苓 朮 黃芩 黃連各三・〇 澤瀉二・〇

右八味、各別に細末にし、糊にて丸と爲す。

用量一回二・〇乃至四・〇。瀉下するを以て度と爲す。

藥能

神麴（シンキク）の性能

藥性提要に云く

『辛ニシテ甘、胃ヲ開キ、水穀ヲ化シ、積滯ヲ消ス』と。

效用

總て不消化物を食ひ、或は過食に因て痞滿し、或は腹痛する等の者を治す。

烏頭丸（家方）

烏頭四・〇 甘草八・〇

右二味、各別に細末にし、蜂蜜を以て、麻子大の丸と爲す。

用量一回二、三丸。證に由り稍や増す。

藥能

烏頭（ウヅ）の性能
概ね附子に同じ。

效用

惡寒し、四肢冷え、或は筋攣骨痛し、或は腹中絞痛し、或は下痢し、脈沈細にして熱候なき諸症を治す。
凡そ諸般の疾病にして、所謂附子の證を現はす者には、皆此方を其主方の兼用と爲すことを得。

回生散（家方）

熊膽二・〇 麝香一・〇 葛粉（今、澱粉を用ふ）二〇・〇

右三味、各別に研磨し、混和して散と爲し、白湯或は冷水を以て、一回〇・二乃至〇・五を服用す。

藥能

熊膽（イウタン）の性能

藥性提要に云く

『苦ニシテ寒、心ヲ涼クシ、肝ヲ平カニシ、蟲ヲ殺シ、癩ヲ治シ、目ヲ明カニス』と。

麝香（ジャカウ）の性能

藥性提要に云く

『辛ニシテ温、經絡ヲ開キ、諸竅ヲ通ズ』と。

效用

諸般の虚脱症狀を治す。

朱蓬蜜（家方）

朱砂（即ち辰砂）一・二 蓬砂（即ち礬砂）二・〇 龍腦一・〇

右三味、各別に細末にし、合して散と爲し、蜂蜜適宜を混和して、之を患處に塗布す。

藥能

朱砂（シユシヤ）の性能

藥性提要に云く

『甘ニシテ涼、心ヲ鎮メ、肝ヲ清フシ、驚ヲ定^{ヤス}ンジ、熱ヲ瀉シ、邪ヲ辟^クク』と。

蓬砂（ホウシヤ）の性能

藥性提要に云く

『甘、微鹹ニシテ涼、上焦ノ痰熱ヲ除キ、津ヲ生ジ、咽喉、口舌ノ諸病ヲ治ス』と。

龍腦（リュウノウ）の性能

藥性提要に云く

「辛ニシテ温、善ク走り、能ク散ジ、諸竅ヲ通ジ、鬱火ヲ散ズ」と。

效用

口内腫痛し、或は舌、齒齦等に瘡を生じ、流涎、疼痛甚だしき諸症を治す。

6.20

昭和九年六月十五日印刷
昭和九年六月二十日發行

實驗漢方醫學叢書(非賣品)第五

著作者

奥田謙藏

發行者

和田利彦
東京市日本橋通三ノ八

印刷者

氣賀林一
東京市日本橋通三ノ八



發行所

東京市日本橋區通三ノ八
(電)日本橋五一・六四一
振替東京一六一七

春陽堂

東京市日本橋區通三ノ八 氣賀林一 印刷所 田

60
1263

終